

■ 専門科目

アート・クリエイション

比較芸術論

後期・選択・2単位

Comparative Study on Arts and Design

担当教員 藤山哲朗、川中利満、岡本弘毅、沼田浩一

授業の目的と到達目標（学修成果）

さまざまな芸術の相違と共通性、狭義の芸術と広義の芸術との関係等について考察し、各種芸術の適切な比較、独自の比較を行い、芸術全体の知識を広げ、各自が専門とする芸術制作と芸術論を高めることが目標である。

授業計画の概要

比較芸術論では、絵画、彫刻、建築、工芸、プロダクト・インテリア・ファッション等を含む各種のデザイン、マンガやアニメ、映像、音楽まで、広義の芸術の比較講義を行う。

芸術共創論

2024年度開講・選択・2単位

Co-creation for Arts

担当教員 未定

授業の目的と到達目標（学修成果）

<授業の目的>

共創や協働による表現についてその現状と可能性を理解する。さらには今日の情報化社会において、人と人の共創・協働に限らず時代や文化を超え、技術や素材が組み合わせられた表現方法が多次的に展開している現状についても理解を深め、受講生各自が自身の研究における表現の可能性について探求する。これらの学習を通して、アーティストやデザイナーに必要な俯瞰的視点と柔軟な思考力を身につけることを目的とする。

<到達目標>

多様な造形・創作形態および表現媒体による創作活動について、具体的な事例とその意義と可能性を、理解することができる。

授業計画の概要

情報化社会におけるデジタル技術や表現媒体の分野を超えた講義とワークショップを通じて、造形・創作方法の多様性と可能性について各自が自分の研究の価値や意義を再確認し、その考察をプレゼンテーションする。

環境アートプログラム

2024年度開講・選択・2単位

Environmental Arts Program

担当教員 未定

授業の目的と到達目標（学修成果）

<授業の目的>

アートやメディア表現を取り巻く創作環境の多様性や社会情勢による制作方法の変化を理解し、各自の表現活動の発展的な可能性を考察する。本授業では日本の伝統文化や社会状況などを起点にしたアートのアプローチ方法を体験や見学も含めて学ぶ。

<到達目標>

作品制作から発表方法に至る研究計画の実践手法と、現代における創作環境や社会環境との関係性について、具体的な事例とその可能性を理解できる。

授業計画の概要

平面的な表現に関する領域を主として、講義とワークショップ、見学等により、表現者と鑑賞者・利用者の視点を包括したメディア芸術のアプローチ方法を実践的な事例の理解から学ぶ。

現代クラフトプログラム

前期・選択・2単位

Modern Crafts Program

担当教員 森岡希世子、友定聖雄、田口史樹

授業の目的と到達目標（学修成果）

工芸における伝統とは何か、それは現在の工芸にどのように受け継がれ影響を与えているのかを、体験的に理解する。

授業計画の概要

工芸の様々な分野において、伝統として伝わる技術や様式を学ぶため、産地のフィールドワークを行う。さらにその伝統を基礎として、現在行われている革新的な技法や新たな挑戦などを、実際に工芸に携わる方々の聞き取りや、調査学習などを行い検証する。そこから今後の工芸の可能性を考える。